



吉川英治文化賞に、本町山田下
に在住の田辺仁市さん(山田下)が選ばれ
十一日東京・帝国ホテルで、栄誉

田辺仁市さん(山田下) 吉川英治文化賞に輝く

ある賞を受けられました。
田辺さんは、昭和十五年板井尋
常小学校を卒業、動物飼育の小使
いとして新潟大学に就職、以
来四十一年の間、実験用動物の
の管理を一手に引き受け、昭
和五十二年同大学医学部が、
尿が止まらなくなる尿崩症を
ウサギで実験し、抗尿崩症ホ
ルモン抗体の研究を成功さ
せ、この実験用のウサギ・犬
モルモット・ラットなどの世
話をし続けて来た地道な陰の
力が、今回の受賞となったも

まだ守られていないよつです 交差点での自転車の右折

新入学期を迎えて、四月六日から十日間、恒例の「春の全国交通安全運動」が行われました。昨年一年間の交通事故による死者は、全国で八千四百六十一人を数えまし
た。これは前年より三百三十二人
少なく、四十六年以來「九年連続
減少」という記録をマークしまし
た。本町では一五九号で知られ
たのとおり、五十三、五十四年と
もに八十七件と減少しています。
しかし、全国での死者のうち、
およそ二人に一人が歩行者か自転
車利用者です。くれぐれも注意
のほどを。

「車社会」の中での弱者は歩行者
者—特に子供と老人であること
はご承知のとおりです。
昨年一年間で全国で三千人近い
歩行者が車にハネられて亡くなり
ました。この内訳のトップは七十
歳以上の老人、二位・幼児、三位
六十歳代、四位・小学生の順とな
っています。
「弱肉強食」という、ジャング
ルの掟は、交通戦争の中にも生
きている—といっている言い過ぎ
でしょうか。
子供の場合、どんなときに悲惨

な交通事故が起きるのでしようか。
警察庁の追跡調査によると、自宅
近くの事故が最も多く、特に半径五
十メートル以内でひんぱん起きてい
ます。こうした傾向は幼児ほど強く、小
学生では下校時、学校から帰っ
て一・二時間後に一番多く死亡事
故が発生しています。
「曜日別に見ると、土・日曜の
事故発生率が高いことから、一種
の解放感が事故に結びつくのでは
ないでしょうか」と分析しています。
子供はひとつのことに夢中にな
りやすく、まわりのものが目に入
らなくなり、ボールを追いかけて
車道に飛び出したりします。また、
子供の気分で行動する特性がありま
すので、お母さんや運転者は、こ
の点を十分にわきまえておいて
いただきたいのです。

この賞の選考に上ったのは、全
国から五百人程で、百分の一の難
関を突破したものです。「五人の受賞
者の仲間に入れたのは先生方のご
支援があったからでしょう」と話
しておられました。三六五日働かず
めで一日の休みもない田辺さんは、
来年は退職されるのか、「まだ体
でもここも悪い所はないし、嘱託に
しても使ってもらって、このお礼を
したい」と、小柄で白髪頭をな
でながら、終始笑顔で話をなさ
す。中に喜びを表わし語って下さいま
した。

もちろん、新潟大学からの受賞
者は今回が初めて、本町出身者で
も第一号となります。

「死」と無形の教訓 (随想)

申(さる)年は、異変が多い
年であると、よく年寄りから聞
かされる。「お互いが、身辺に
気をつけよう」と、話し合った
のは、つい昨日のことであった。
その口の乾かぬ間に、私の住む
平和な部落に、突然異変が起き
た。
○月○日未明、私は、けたた
ましいビーポー、ビーポーの音
に眠が覚めた。時計を見たら午
前二時三十分、急病人だろうか
と、心を痛めながらウトウトと
して夜が明けた。そこへ隣の姉
さんが、眠を赤くしてかけ込ん
で来た。「実は○○家の兄さん
が急に亡くなった」との事。一
瞬の衝撃に「まさか!!」と、言
葉を返したが、それはまさかも
ない悲しい事実であった。病名
は、急性心不全と聞いた。

やがて、想い思いの同情が雨と
涙に変わるなかで、霊柩車は、読
経と共に部落に別れを遂げて、
二度と戻らぬ人となった。
「生者必滅」とはいえども、
余りにもあつた空しい人の
命に驚愕おくとるを知るよし
もない。四十一年の生涯、それも
一瞬の出来事だった。故人の評
価は、棺を蓋って定まらんとす
うが、生前の人格、人柄が今、
部落人を始め多くの人から悼ま
れ、惜しまれている。
平和で暖かい、里の春を待た
ずに、散つて逝つた一人の若者
の死、様々とすうか、偉大な教
訓を残した。一にも二にも健康
のよさごとく幸福を教えた。逝つ
た。そして、人間の生き甲斐、
自己を呼びおこし、この世の広
さと、あつたなきを教えた。
救急車の皆さん、ご苦労様で
した。又、名医のご努力に感謝
します。ましてや、死を悼む多
くの人情の機微など……。
生きることは尊いことではな
いか。「健康」という二字は、
素晴らしい言葉ではありません
か。私は、「無形の教訓」を、
故人からよく学び、明日の社会
生活の糧とした。

(M生)



世界農林業センサス

十年に一回実施され、五年に一回中間調査が行われる、農林業センサスの本町独自の集計がまとまりましたので、お知らせします。これによると、農家数は、前回(昭和五十年)に行われた中間農林業センサスと比較し、百戸近い大幅な減少となっています。これは小規模農家が、大・中規模農家へ耕作を委託したことなどが、大きな要因と推測されます。

農家数百戸近くも減少 耕作を委託したことが原因

このたびの統計からうかがわれることは、三年目を迎えた「水田利用再編対策」の余波は非常に大きく、米にかわる農作物への転換は大・中・小規模農家にかかわらず難題を投げかけ、今後の農業経営に一抹の不安を与え、さらに機械化の影響で新機種への買い替えのため(借金)に追われ、耕作委託をする農業者の増は前述したとおりです。

農家数と農家人口

| 区分 年次 | 農家人口 | 農業就業人口 | 農家総数 | 専業・兼業別農家数 | | | |
|----------|-------|--------|-------|-----------|------|-----|-----|
| | | | | 専業農家 | 兼業農家 | | |
| | | | | | 総数 | 第一種 | 第二種 |
| 40 | 7,001 | 2,869 | 1,012 | 88 | 924 | 674 | 250 |
| 45 | 6,232 | 2,620 | 971 | 88 | 883 | 575 | 308 |
| 50 | 5,046 | 2,540 | 839 | 47 | 792 | 487 | 305 |
| 55 | 4,333 | 2,280 | 743 | 39 | 704 | 346 | 358 |

経営耕地面積

| 区分 年次 | 総数 | 樹園地 | | |
|----------|---------|---------|-------|------|
| | | 田 | 畑 | 樹園地 |
| 40 | 1,824ha | 1,596ha | 214ha | 14ha |
| 45 | 1,740 | 1,536 | 200 | 4 |
| 50 | 1,593 | 1,419 | 171 | 3 |
| 55 | 1,561 | 1,407 | 151 | 2 |

穀物戦争の危険か?

ある有力な報道機関の伝えるところによると、一九八〇年代にどこかで「穀物戦争」が起こると予測されています。自給自足のできる唯一の「米」でさえ、肥料は外国からの輸入に頼っているのが現状です。



川は生活のオアシス 四月は河川愛護月間

わたしたちは遠い昔から、河川の限りない恩恵を受けながら暮らして生きてきました。魚を食べ、かんがい用水として使い、交通、運搬の手段に役立て、産業に利用し……いつの時代にも、わたしたちは河川と深いつながりを持って生活してきました。河川は、わたしたちが生きていく上で欠かせない貴重な自然環境の一つです。しかし、一方で、都市化の波とともに、河川をとりまく環境も、時代の流れとともに大きく変わってきています。たとえば、「川汚れて魚が死す」排水やゴミの投げ捨てなどで河川が汚染され、魚がいなくなる—こうして、わたしたちの「生活の川」が失われていくのです。河川の汚れは、ひいては、わたしたち自身の生活をも汚すことにつながります。

今月は「河川愛護月間」です。「生活のオアシス」である河川—手足をひたし、野草をつみ、レクリエーションの場でもある河川を汚さないように、わたしたちの手で守りぬきたいものです。

「誇れる郷土に
きれいな河川」